

科学技術への顕著な貢献

ナイスステップな研究者、小林副大臣と意見交換



「今日は肩の力を抜いて言いたいことを何でも
言ってください」と話す小林副大臣（前列中央）

昨年12月に、文部科学省の科学技術・学術政策研究所（NISTEP）より「ナイスステップな研究者2025」に選定された研究者らが9月8日、文科省で小林茂樹文部科学副大臣と懇談した。

同研究所では、2005年より科学技術への顕著な貢献をした研究者を「ナイスステップな研究者」として選定している。昨年は、今後活躍が期待される若手研究者を中心に、気象、材料科学、AI、ライフサイエンス、民俗学など多岐にわたる分野の研究者10名を選定。この日は、そのうち9名が参加した。

小林副大臣は「第7期科学技術・イノベーション基本計画の中では、研究者一人ひとりの好奇心、内在的な動機を起点とした知の探究、そしてその成果が社会へとつながって広く共有されることの重要性があらためて示されています。新たな知を創り出し、科学技術によって未来を切り拓く力を持っている皆さんに大きな期待をしています」と語りかけた。

また、「研究者の皆さま方が安心して挑戦的な研究に取り組み、その成果を最大限発揮できる環境を整備することが政府にとって重要な役割です。文科省としては、我が国の教育・研究力の強化や研究者への支援に引き続き取り組んでまいります」と述べた。

PISA調査結果

日本、3分野すべてでOECD加盟国中1位

OECD（経済協力開発機構）が2025年に実施した「生徒の学習到達度調査（PISA）」結果が9月8日に公表された。

PISA調査は、義務教育修了段階の15歳の生徒が持っている知識や技能を、実生活のさまざまな場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測ることを目的とした調査。2000年以降、おおむね3年ごとに実施している。今回、91カ国・地域から約76万人が参加し、日本からは全国の高校1年生のうち、国際的な規定に基づき抽出された183校約6500人が参加した。

調査結果によると、日本は調査開始以降初めて3分野（科学コンピテンシー、読解力、数学リテラシー）全てでOECD加盟国中1位を獲得、世界トップレベルを維持した。なお、全参加国・地域中では科学コンピテンシー15位、読解力4位、数学のリテラシー5位だった。OECDは「日本は3分野全てで国際的に高い水準を維持し、一貫して社会経済的公正性が高い。一方、低得点層の割合の上昇といった課題も見られた」と評価している。

【科学コンピテンシー】「現象を科学的に説明する」「科学的探究のための計画を構築し、評価し、科学的データと証拠を批判的に解釈する」「意思決定と行動のために科学的情報

を調査し、評価し、利用する」能力

【読解力】自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組む能力

【数学リテラシー】数学的に推論し、現実社会にある様々な文脈において問題を解決するために数学を定式化し、活用し、解釈する個人の能力

木原官房長官

「学校現場の努力のたまもの」

木原稔官房長官は9日の会見で、OECDの学習到達度調査で、主要3部門において日本が加盟国中1位を獲得したことについて「我が国の教育水準が国際的にトップレベルを維持していることを示すものであり、子どもたちの日々の努力、学校現場のたゆまぬ努力、また、保護者など関係者のご尽力のたまもの」と指摘。「子どもたち一人ひとりの可能性を最大限に伸ばしていくため、学習指導要領の改訂をはじめ、教育政策のさらなる充実に取り組んでいく」と話した。



木原官房長官
官能性を最大限に伸ばして
いくため、学習指導要領
の改訂をはじめ、教育政
策のさらなる充実に取り組
んでいく」と話した。